

佐伯地区医師会

## 耳のつまり感

耳は外側から、耳介、外耳道、鼓膜、中耳、内耳、聴神経とつながります。「耳のつまり感」はそれぞれの部位に病変があると起こります。

1) **耳垢栓塞**：外耳道が耳垢で塞がれ、つまり感を起こします。

2) **外耳道炎**：外耳道の皮膚の湿疹や傷による腫れで起こります。鼓膜の表面の炎症によって起こることもあります。

3) **中耳炎**：小児に多い病気です。細菌が鼻から耳管という管を通して中耳に達し炎症を起こした状態を急性中耳炎と言います。この状態が長引いたり、中耳に貯まった滲出液が鼻の方へ出ていかずに起こるものを滲出性中耳炎と言います。小児は鼻が悪くなりやすいので中耳炎にもなりやすく、治り難いと言えます。根気よくそのたびに治しておくことが大事です。また、中耳炎になっていなくても、耳管の通りが悪くなり耳のつまり感が生

じることもあります。

4) **突発性難聴**：内耳の音を感じる装置が悪くなり、ある日急に難聴が起こる原因不明の病気です。難聴と共に耳のつまり感や耳鳴りが起こることがあります。難聴が軽度の場合、耳のつまり感が唯一の症状という場合もあります。症状が起こってから早い時期に治療を始めないと治り難くなります。

5) **聴神経腫瘍**：極めてまれですが、聞こえの神経に腫れものができることがあります。小児ではほとんど見られません。このように「耳のつまり感」で考えられる病気、状態はいろいろあります。症状が続く場合、早めに耳鼻咽喉科を受診してください。

ひらた耳鼻咽喉科アレルギー科  
院長 平田 思